

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
<b>(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか</b>						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	<p>農場の目的については、明治大学農場規程（2011年4月20日制定）に「農場は、農場に関する実習その他の学生教育を行い、農場を活用した研究の推進を図るとともに、その成果を社会に還元することを目的とする。」と定められている。</p> <p>農場の理念については、「教育・研究に関する長期・中期計画書」において、「学生の継続した栽培教育を可能とするとともに、環境と共生しながら高度な先端技術を駆使した生産・効率性の高い栽培システムと持続可能な資源循環型のシステムを併せ持つ農場を目指している。」と明記している。</p> <p>この理念・目的の達成のために、富士吉田・菅田農場を機能統合、拡充した黒川農場を2012年4月に開所し、基本コンセプトとして、環境共生、自然共生、地域共生の三つの共生を柱と定めた。</p> <p>環境共生については、農場内里山林保全整備で排出される木質バイオマスをペレット化して温室暖房の一部に利用するなど、再生可能なエネルギーの農場内循環利用を実現させるとともに、太陽光及び雨水の有効活用などによる資源循環型の農場を目指す。</p> <p>自然共生については、周囲の里山を利用した研究・教育を実践するとともに、農場を環境教育の場として公開し、恵まれた周囲の自然環境を活用した自然共生型の農場を目指す。</p> <p>地域共生については、リバティアカデミーと連携した市民農園型農業講座「アグリサイエンスアカデミー」の充実など市民への学習の場の提供、川崎市等の事業連携協力の推進、小中高生を対象とする環境教育の場の提供など、社会に開かれた農場を目指す。</p>					
<b>(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</b>						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	「教育・研究に関する長期・中期計画書」の作成にあたっては、農場運営委員会総務分科会において検討し、農場運営委員会で検証している。さらに、実務に関する内容については、毎週月曜日に開催される「農場内業務連絡会議」において定期的に検証している。	2016年度より農場運営委員会分科会が実態に合わせて再編され、責任主体と手続きが明確化された。		農場運営委員会分科会の適切な運営。		

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
<b>(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか</b>						
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	○農場 本農場には2名の専任教員、4名の特任教員と1名の客員教員が所属し、教育・研究と諸施設の運営を行っている。教育では農学部等関連機関と連携し、研究については、積極的に外部機関との連携した研究を実施している。さらに、川崎市と連携協定締結やリバティアカデミー講座の開講など、地元根付いた農場として展開している。					
<b>(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか</b>						
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	農場運営委員会分科会において検討された運営事項について、農場運営委員会で定期的に検証し、承認をすることにより責任体制を整備している。また、農場運営委員会メンバーが、農場内業務連絡会議で農場教職員に報告・検討することで、調整機能も果たしている。	農場運営委員会農場実習分科会の検討により、農学部等関係機関との円滑な運営を実施している。さらに、農場連絡会議においても毎週、実習内容を検討している。		農場実習分科会及び農場連絡会議における検討の継続。		

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
<b>(1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか</b>						
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。【約400字】	<p>大学が毎年度定める「学長方針」や「教員任用の基本計画」に示された教員像に基づき、農場では、「教育・研究に関する長期・中期計画書」に教育及び管理に関する適正規模に基づく教員配置の方針を示している。</p> <p>教員像は、農場の事業目的に沿った活動に従事し、研究活動の高度化を推進する教員組織を編成する。教員組織の編成方針は、施設園芸、露地栽培、環境保全等分野において高い専門性を有し、農場実習指導の可能な教員組織を編成している。「2017年度教育・研究年度計画書」では、農場に配置すべき教職員の適正規模については、専任教員2名、特任教員5名、専任技能職員6名、特別嘱託職員5名、さらに専任事務職員1名と嘱託職員1名であると記載しており、年次事業の拡大とともに、適正規模の人員配置にすべきと考えている。</p> <p>実習教育は、これまで実施されてきた土地利用型の露地畑作物だけでなく、園芸作物、加えて植物工場的な高度な園芸生産技術から環境保全型農業生産技術、里山実習、さらには食品加工を含むことから、実習担当教員には、幅広い専門性と研究能力が要求される。そのため、採用にあたっては、豊富な研究実績とともに、農作業の実務能力を採用の基本基準とし、「農場における教員の任用に関する内規」に基づいて決定する。また、「学部長会における教員の任用及び昇格審査基準」に任用及び昇格に関して必要な学術論文又は学術著書の編数及び審査基準を定めており、教員に求める能力等を明確化している。</p>	<p>2014年4月から農場所属の特任教員が4名となり、特徴ある教育研究を行う最低限の組織が編制された。</p> <p>2017年4月には、特任教員の任用更新1名と新規採用1名により4名の枠が確保され、さらに客員教員も任用更新されたことにより、特徴ある教育を継続することが可能になった。</p>	<p>食品加工教育及び里山教育に対する継続した環境整備計画の取り組みが必要である。</p> <p>研究活動を円滑に進めるためには技能職員との連携強化が必要である。</p>	<p>社会・時代の変化に対応した教員体制について、「農場運営委員会」で引き続き検証する。</p>	<p>農場における多様な教育が継続して可能となるよう、食品加工及び里山教育の継続した充実が必要である。専任教務職員の研究に対する理解を深めるため、資質向上策を実施する。</p>	<p>里山環境の整備、食品加工実習室の地域開放、展示温室の充実等、一般に公開するための施設整備を充実させる必要があるため、教員及び校務職員の適正配備について年度計画書に基づき実行する。</p>
<b>(2) 付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか</b>						
<b>教員の編制方針に沿った教員組織の整備</b>						
a ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。【600～800字】	<p>黒川農場の目的・目標に沿って、2012年4月に農学部所属の農場担当専任講師1名と農場所属の特任教授2名を任用し、2013年4月に農場所属の客員教授1名を任用した。2014年4月には農学部所属の特任教員2名のうち、1名の任用更新の際に農場へ所属変更、1名の特任教員を農学部から農場へ移籍したことで、農場所属の特任教員が4名となった。2016年4月には特任教員の1人が更新、里山管理担当客員教員の退任に伴い、新たに食品加工担当の客員教員が任用し、客員教員の枠は確保された。</p> <p>2017年4月には特任教員1名の退職に伴い、新たな特任教員が任用され、開所時の教員組織は維持された。</p>	<p>退職に伴う特任教員の補充、客員教員の再任により、農場の運営・教育に必要な人員は確保された。</p>		<p>2017年度も1名の特任教員が退職するため、その補充が不可欠である。</p>		
<b>教員組織を検証する仕組みの整備</b>						
b ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。【600～800字】	<p>農学部の農場担当専任教員の採用に際しては、教員募集要項に予定担当科目・応募資格・提出書類・選考方法等を明記し、科目適合性及び透明性を担保するよう取り組んだ。また、特任教員及び客員教員の任用に際しては、農場の事業目的に沿った活動に従事可能な人材であるかを、農場運営委員会を通じて審査している。</p>	<p>特任教員は5年、客員教員は1年契約のため、任用計画の度に農場の事業目的との適合性を検証している。</p>		<p>社会情勢の変化に対応した事業目的に適合できる教員審査の体制を整備する。</p>		

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
<b>(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか</b>						
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。【400字】	農場所属の特任教員及び客員教員の任用に際しては、「明治大学教員任用規程」及び「農場における教員の任用に関する内規」に基づき適正に行われている。	公募により特任教員1名を任用した。				
<b>(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか</b>						
<b>教員の教育研究活動等の評価の実施</b>						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。【400字】	農場実習については、毎週月曜日に開催される「農場内業務連絡会議」において実習の計画と実績を検討することにより相互評価を実施している。また、研究実績においては外部研究資金導入の実績及び学会発表等により評価している。	2016年度は6課題の外部資金を獲得し、17件の学会発表、6件の論文と7件の著書等を発表した。（「2016年度農場報告」）		継続して外部資金の獲得及び学会発表など成果の公表に努める。	学会発表の強化。	外部資金獲得の継続化。
<b>教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性</b>						
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。（※）社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価します。【600～800字】	実習終了後授業改善アンケートを実施し、実習の改善に反映させている。また実習計画と実習終了後の報告書及び学生の実習感想文をまとめ、農学部各学科長に提出し、実習の改善に努めている。社会人教育や川崎市等との社会貢献については各教員がそれぞれの特技により幅広い対応がなされている。					

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
<b>(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき授業科目を開設し体系的に編成しているか</b>						
<b>必要な授業科目の開設状況</b>						
a ◎必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	農作物の播種、育苗、施肥、除草、病虫害防除などの栽培管理、および収穫、出荷調整などを体験し、農業生産技術の成り立ちを理解することと、里山の機能、バイオ燃料などについて、実習・講義を通じて理解を深めることを目標としている。 農学部設置されている「農場実習」は基本的導入教育と位置づけられ、「実地を重視し、実地を通じて理解を深め、研究をすすめていく」という農学の基本的性格を、早い時期に、しかも具体的に展開・経験できるよう1年次に配当されている。 「農場実習」は、付属の黒川農場における学科ごとに異なる期間に実施する講義・実習から構成されており、1単位が認定されている。2014年度からは学部間共通講座が開設され、これには2単位が認定されている。	「農場実習」の2016年度の履修者数は、農学科118名、農芸化学科135名、生命科学科103名、食料環境政策学科113名、学部間共通講座11名である。1年生の大部分が履修しており、学生から好評を博している。	各学科の担当者が工夫して実習に取り組んでいるが、1日あたり農学科59名、農芸化学科45名、生命科学科52名、食料環境政策学科29名と学科により格差があるため、指導内容を工夫する必要がある。	教職員が協力し、より充実した実習を行うよう努めるとともに、里山管理が担当できる教員の継続確保を行う。	担当教員や職員の数を増やすことにより、チューデントレシオ差をなくすることにより、学科間の不平等が生じないようにする。また、特徴のある実習教育が行われるよう各学科の実習内容を工夫してゆく。	露地及び施設圃場により野菜栽培を中心にしながら、里山管理、果樹栽培、食品加工など幅広く特徴のある実習教育が可能な環境と体制を整備し、学生指導の高度化を図る。また、社会人教育については、食品加工を含めた幅広いカリキュラムを編成する。
<b>教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性</b>						
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	実習終了後、授業改善アンケートを実施し、さらに学生に感想文を提出させ、実習の改善に反映させている。また実習計画と実習終了後の報告書及び学生の実習感想文をまとめ、農学部の各学科長に提出し、実習の改善に努めている。	農場実習分科会において実習計画を検討し、教員と職員の協力のもとに農場実習が円滑に実施できた。また実習終了後の報告書を農学部の各学科長に提出し、検証を行っている。		農場実習分科会などにより、関係機関と協議することにより農場実習の改善を行う。		

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
<b>(1) 教育方法及び学習方法は適切か</b>						
<b>教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性</b>						
b ●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】	2016年度の農学部「農場実習」では、学科ごとに実習内容・実習実施期間を分けて授業を展開した。 農学部の教育研究現場で生産的要素を有している場所として黒川農場で実習と講義を行っている。農学を学ぶための基礎的諸分野の内容のほか、実習内容に直接役立つ項目等を含めて分かりやすく具体的に講義している。 実習は、野菜などの作物の植え付け・栽培・収穫など一連の農作業を教職員と共に行い、農業の実体を見聞、体得するとともに、農学と農業の一端を実学として学んでいる。 実習実施期間は学科によって異なり、農学科は春学期実習グループ（4月～7月）と秋学期実習グループ（9月～12月）に分けて行った。農芸化学科は、3グループに分けて春学期（4月～7月）と夏期集中型（8月上旬）を組み合わせて行った。生命科学科は夏期集中型（8月下旬～9月上旬）で行った。食料環境政策学科は、4グループに分けて通年（春学期：4月～7月、秋学期：9月～12月）で行った。	播種から収穫までの一貫した教育実習を体験できる「農場実習」は、選択科目にも関わらず2016年度の履修者数は、農学科118名、農芸化学科135名、生命科学科103名、食料環境政策学科113名であった。1年生の90%以上が継続して履修しており、学生から好評を得ている。さらに、他学部の学生が受講できる学部間共通総合講座は11名の受講者があった。	食品加工や里山管理を含めた、より広範な内容の実習教育を実施する必要がある。また、学科により1日あたりの受講者数に差があるので、これに対応した教員数を配置するよう改善を図る。 学部間共通総合講座の2016年度受講者数が11名と少ないため、他学部への呼びかけを強化し、受講者の増強を図る。	農学部農場実習のさらなる内容充実を図るとともに、農学部以外の学生が参加できる学部間共通総合講座の拡充を図る。	学部間共通総合講座に他学部からの学生が多く参加できるよう情報の発信に努める。	栽培から加工まで一貫した教育実習の強化と、周辺環境を生かした里山文化の教育実習等、実習教育の内容の多様化と強化を行う。また、学部間共通総合講座の充実・強化を図るとともに、他大学との連携も検討する。
<b>学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）</b>						
e ●学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）を行っているか。 【なし～800字】	教員・職員・TAが一体化して、学生指導を行えるよう計画している。実施に当たっては、作業の持つ意味を考えさせ、作業をグループ化するなどにより学生が主体的に作業を行うとともに、教員や職員の目が行き届くように配慮している。	教職員が協力して、円滑な実習が行われている。作業の内容については、資料を配布したり口頭で説明するなどにより、作業の意味を考える対応をしている。また、関連情報を調査し、レポートとして提出するなどの工夫をしている。	学科により学生数にばらつきがあるため、目が行き届かない場合もある。	学生が考え、行動できる内容とするため、さらなる実習方法の工夫を行う。	学生数に応じた教職員の配置となるよう改善する。	農場実習終了後のアフターケア対策を設定する。
<b>(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか</b>						
a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。（成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、（研究科）修士・博士学位請求論文の審査体制） 【約400字】	農場実習の成績評価方法は、シラバスに明記した。実技と実習態度50%、レポート50%で評価する。	実習は、体験して初めて教育効果が上がることから、実技と実習態度及びレポートによる成績評価としている。		学生の実習への取り組み態度を重視した成績評価を行う。		

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
<b>(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善（授業に関わるFD活動）に結びつけているか</b>						
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	農学部設置されている「カリキュラム委員会」で、黒川農場の開所により、2012年度より学科の特性に対応した、通年型の実習教育を展開するカリキュラムに改正した。	農場実習の内容については教員と職員が協力して検討し、実施指導している。		教職員が連携した指導に努める。		
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	実習終了後、授業改善アンケートを実施し、さらに学生の感想文を提出させ、実習の改善に反映させている。また実習計画と実習終了後の報告書及び学生の実習感想文をまとめ、農学部の各学科長に提出し、実習内容の改善に努めた。	実習終了時に学生に実習の感想を書かせており、それに基づく実習の改善を行っている。		実習終了時の感想文やアンケート提出を継続して実施する。		
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】	農場実習実施計画にあたっては農場実習分科会で検討している。また終了後には、農場実習学科別報告書を作成し、農学部の各学科長に提出し、検証している。	実習計画と実習終了後の報告書を農学部の各学科長に提出し、農学部との連携が図れている。		アンケート結果を基に、カリキュラム改定時に農場実習の内容について、見直しを検討する。		

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
<b>(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか</b>						
a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】	露地野菜栽培を中心に、先端的施設栽培施設及び里山管理など幅広い実習教育を実施しており、栽培を体験できる農場実習は学生に好評である。実習終了後に感想文を提出させ、次年度の実習内容の改善に努めている。	農場実習終了後に感想レポートを提出させ、実習内容の効果評価をしている。一貫した作物栽培を体験できる農場実習は学生に好評であり、選択科目であるが農学部では受講率が90%以上である。	栽培及び里山管理に加え食品加工を含む広範な内容の農場実習となるよう、内容を強化する。また、学部間共通総合講座においても内容の多様化に取り組む。	教職員と学生の交流の場を深めた実習を行う。	食品加工の実習をはじめ、実習内容の多様化に取り組むとともに、学生との交流に努める。	食品加工や里山管理を含めた広範な内容の農場実習となるよう、内容を強化する。
c ●学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を実施しているか 【約400字～600字】	学生に対するレポートや感想文においては、一貫した作物生育を体験できる農場実習は好評である。また、社会人講座においても、講義と実習指導がセットされた内容が極めて好評であり、受講希望者が多い。	受講者全委員から感想文を提出させ、学科長に報告している。		現状を継続する。		



# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 7 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
<b>(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか</b>						
a ●方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制や衛生・安全を確保する体制を備えているか。	2012年4月に富士吉田及び菅田に保有していた農場を機能統合・拡充した「黒川農場」を開所した。本農場は、教育・研究圃場面積として露地圃場約14,000㎡（うち有機栽培圃場約3,000㎡）、大型温室3棟（936㎡×1、624㎡×2）、中型温室1棟（288㎡）、小型温室3棟（162㎡×3）、里山約64,000㎡を有している。農場では事務機能及び実験室・研究室や教室などの教育研究機能を併せ本館を中心とした施設・設備を利用して学生及び生涯教育講座受講生等が学んでいる。そのほかの教育・研究施設としては圃場、栽培温室、展示温室、豚舎、ペレット生産場、自然生態園等の施設を擁している。大型温室3棟、中型温室1棟、小型温室3棟では、最先端技術の養液栽培システムを用いた研究を実施している。また、農学部と協力し、周辺約6.4haの緑地における里山管理手法の教育を行っている。教育・研究に関する年度計画書に基づき、圃場整備計画、備品整備計画の年次計画を立案し、環境整備を行っている。その他に、外部資金獲得による研究機器・装置の充実も図っている。	農場連絡会議において定期的に協議し、適切な運営が行われている。	2017年度で黒川農場の開所から6年が経過することから、今後、施設及び機器備品の修繕の必要性が高まる。とくに、里山管理では予算対策が急務である。	引き続き、農場連絡会議において密な連携を図る。	施設の維持管理や機器の修繕に関し、必要な予算を確保し、年次計画により対応する。	施設の老朽化対策及び里山等周辺環境の維持のための、長期計画の策定が必要である。
<b>(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか</b>						
a ●学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制を備えているか。 ●教育研究等環境の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にし、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	教育研究環境の整備については、農場運営委員会総務分科会において検討する。					
<b>(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか</b>						
a ①研究倫理に関する学内規程の整備状況 ②研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性	研究倫理に関する規定は、農学部準じている。					

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
<b>(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか</b>					
a ●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	<p>黒川農場の基本理念として定められている「地域共生」に基づき、「アグリサイエンスアカデミー」を開講している。2016年度は、3講座64名の受講生であった。</p> <p>川崎市とは、2007年に締結した「明治大学と川崎市との連携・協力に関する基本協定書」に基づき、2009年に「明治大学と川崎市との黒川地域連携協議会設置に関する覚書」を締結し、同年に明治大学・川崎市連携協議会を発足させた。さらに、神奈川県とは都市農業振興に関する連携協定を締結している。これらの協定に基づき自治体や企業と先端的栽培技術や地域バイオマスの活用について連携していくことを基本方針としている。</p> <p>農場は川崎市黒川地区における社会貢献・地域連携の中核をなすものであり、近隣自治体との連携を深める。具体的には、里山を使った市民講座や食品加工室の利用などが挙げられる。神奈川県及び川崎市と連携協定を締結し、これに基づく連携・協力を進めている。その一環として2013年2月には川崎市と「明治大学と川崎市との生ごみリサイクルに係わる連携事業に関する覚書」を締結した。</p> <p>また、2017年度「教育・研究年度計画書」の策定とその推進について（学長方針）に謳われているとおり、国際化推進が一層求められている。農場では開発途上国の留学生に対する農業教育・研究の場として活用するとともに、JICA（国際協力機構）等の機関と提携し、研究者や学生の交流を行う。</p>	<p>農場収穫祭は、麻生区や地域市民と連携して実施している。川崎市と生ごみの農業利用促進について覚書を交換し、2016年度は10戸で作成したダンボール箱コンポストの肥料成分を分析し、堆肥施用区と化学肥料施用区と比較試験を行った。2016年9月には、麻生区やNPOと協力して、「竹炭シンポジウム」を行い、多くの市民の参加を得た。国際交流については、中国山東省の中日合作企業との交流、モンゴル日本農業フォーラムの参加、中国安徽農学院及び西南森林大学のシンポジウムに参加した。</p>		<p>川崎市との交流は市民と行政を含めた活動として、今後とも拡充する。</p> <p>国際交流については、人的交流とともに農場の持つ栽培技術を伝授するにより、途上国を中心とした国際貢献を果たす。</p>	<p>学生を巻き込み、農場の特徴を生かした、長期的な国際交流のシステム作りが必要である。</p>
<b>(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか</b>					
a ○農場の社会サービス活動	<p>○農場の社会サービス活動</p> <p>環境・自然・地域との共生をコンセプトとした農場を黒川地区に開場し、神奈川県及び川崎市とは連携協定を定め、これに基づく連携・協力を進めている。その一環として2013年2月には「明治大学と川崎市との生ごみリサイクルに係わる連携事業に関する覚書」を締結した。また2014年2月には「明治大学・川崎市黒川地域連携協議会」の下に3つの専門部会を設置し、各部会の座長には農場教員が就任し、農業振興やグリーンツーリズムの推進に関する協働を進めている。さらに、川崎市産学共同研究開発プロジェクト「スマートスタート可能なICT利活用遠隔営農モデル開発」では「養液土耕栽培の自動制御システム」を開発し商品化した。さらに神奈川県と「都市農業の振興における神奈川県と大学との連携に関する協定書」を締結している。</p> <p>2016年11月に開催した「収穫祭」には1,761人が来場し、来場者へ教育研究の内容を紹介した。農場の一部施設は適宜施設見学の依頼に対応しており、2016年度は161件、1,006人の見学があった。また、川崎市環境局との連携協定に基づく「家庭生ごみ段ボール堆肥」の栽培試験について、一般向け研究成果発表会を2016年11月に収穫祭に合わせて開催した。また、「アグリサイエンスアカデミー」への講師派遣などによる市民学習や、中学校の職場体験見学の受け入れによる環境教育の場の提供も行っている。</p> <p>2017年度「教育・研究年度計画書」の策定とその推進について（学長方針）に謳われているとおり、国際化推進が一層求められている。農場では開発途上国の留学生に対する農業教育・研究の場として活用するとともに、JICA（国際協力機構）等の機関と提携し、研究者や学生の交流を行う。</p>	<p>神奈川県及び川崎市とは連携協定を定め、これに基づく連携・協力を進めている。</p> <p>2012年から開催している「収穫祭」には、多くの市民参加があり、農場で生産された作物の販売の他に農場での研究成果を発表し、社会に周知している。</p> <p>「アグリサイエンスアカデミー」による市民への学習の場の提供、小中学校の見学の受け入れや環境教育の場の提供を行い、農場設置主旨でもある地域と大学の連携による多目的な都市型農場となっている。</p>		<p>首都圏に位置する農場として視察者を積極的に受け入れ、農場のPRに努める。</p> <p>近隣には、アグリビジネスへの参入気運が高い民間企業が多いことから、これらの企業と先端的栽培技術や地域バイオマスの活用について連携する。</p> <p>「アグリサイエンスアカデミー」が好評を博しており、社会的ニーズが高まっている本講座を発展させ、リバティアカデミーと共同し履修証明制度適格講座につなげる。</p>	

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
b (検証システムと改善実績) ●社会連携・社会貢献の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。	黒川農場運営委員会社会連携分科会で検討し、実施したことを、農場運営委員会で定期的に検証し、承認をすることにより責任体制を整備している。		分科会の設立が遅れ、十分な検討が行われなかった。		分科会活動の強化。	

# 2016年度 農場 自己点検・評価報告書

## 基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
<b>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</b>						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	農場における内部質保証のため、中・長期計画及び年度計画の策定において、農場運営委員会等で十分な議論を重ねている。また、その計画の実施についても、農場運営委員会分科会等で必要な検討を進めながら行われている。 実施に関する検証・評価作業は農場運営委員会総務分科会が担当し、点検・評価後に、検討内容を次年度の計画に生かす方針である。こうした農場におけるPDCAサイクルによる改善の実施を積極的に進めて行き、内部質保証をより確実なものとして行く。	自己点検・評価と年次計画書策定を農場運営委員会で審議することにより、評価結果を年度計画に反映していることを農場運営委員及び農場所属員で共有している。		自己点検・評価報告書の検証内容を中長期的計画に反映させ、短期と中長期計画を連動させるような取り組みをさらに深化させる。		
<b>(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか</b>						
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫	自己点検・評価報告書の作成に際しては、農場運営委員会の議を経ている。農場運営委員会メンバーが、定期的開催される農場業務連絡会議で評価結果を報告することにより、日常活動の改善に活かし、さらに中・長期計画及び年度計画の策定において、内部質保証システムを適切に機能させている。 2015年度の自己点検・評価のうち、人事計画、農場教育の充実などの課題については、2017年度計画に専任事務職員の配置や技能職員の資質向上、食品加工実習の導入として反映し、計画的に改善を図ることとした。		内部質保証のための自己点検・評価結果は公表しているが、必ずしも全教職員が理解がしているとはいいがたい。		自己点検・評価の検証結果を農場内業務連絡会議で周知し、日常の農場運営の中で改善策を実施する。	農場運営委員会等での検証結果に基づく年次計画を策定し、PDCAサイクルによる改善を具体化する。